

平成21年12月15日

No.241

畜産会 経営情報

主な記事

- ① 明日への息吹
畜産農家の経営改善のためのJA菊池の取り組み
宮本 義則
- ② セミナー経営技術
畜産特別資金借受者指導に係る取り組み状況の概要②
(社)中央畜産会
- ③ セミナー生産技術
放牧による効率的な水田活用を目指す (社)中央畜産会
- ④ あいであ&アイデア
「手づくり草量計」を用いた草地の収量推定 前田 康之
- ⑤ 牛肉・豚肉、子牛市況

社団法人 中央畜産会

〒101-0021 東京都千代田区外神田2丁目16番2号
第2ディーアイシービル9階
TEL 03-6206-0846 FAX 03-5289-0890
URL <http://jlia.lin.gr.jp/cali/manage/>
E-mail jlia@jlia.jp

明日への息吹

畜産農家の経営改善のための JA菊池の取り組み

宮本 義則

JA菊池の概要

菊池地域農業協同組合（JA菊池）は熊本県の北東部に位置し、昔から畜産のみならず水稲、野菜など県内でも有数の農業地帯です。中でも酪農においては西日本一の規模であり、また肉用牛も県内トップの飼養頭数を誇っています。本農協の販売高は249億円で、そのうち畜産が179億円と、販売高全体の72%を占めており、畜産販売高のうち酪農が64億円、肉用牛が99億円、その他が16億円となっています。

その中でも泗水町^{しすい}は、昔から酪農が盛んな地帯で、私が担当する融資係は7割ぐらいは

酪農融資係みたいなもので、日々の窓口業務では、前向き資金でも後ろ向き資金でも酪農家の相談案件が多く、「酪農融資係のようだね」と冗談を言い合ったりすることもあるような状況です。

私は現在の金融共済課融資係に配属される前は、営農課の園芸の指導を担当しており、23年間園芸指導しか担当したことがなく、畜産のことはまったくとっていいほど分かりませんでした。今でもまだよく分からないことがあります。畜産の指導員に協力してもらいながら仕事を進めています。

今回は、そのような中で大家畜経営改善支援資金の経営継承資金により、負債整理をした農家に対する整理の進め方や、経営再建の

ための農協の取り組みなどについて、私が担当として経験したことや、畜産指導部門に協力いただいたことなどを交えて紹介したいと思います。

畜産農家の負債の現状

畜産農家の経営の現状は、飼料の高騰、枝肉価格相場の長期低迷、乳価の下落（平成21年度は少し上昇）などにより大変厳しい状況が続いています。生産物代金で飼料代すら全額払えずに貸し越しが徐々に増加している農家が多くなっています。当地区の酪農家の経営の現状について、農協の諸先輩方から以前よく聞かされたのが、酪農家の中で経営面で健全な経営が1/3、ぎりぎりの経営が1/3、赤字経営が1/3ということでした。

自分が担当になって、そのことを実感しています。このような状況にもかかわらず、本当に健全な農家では、負債がゼロですが、逆に負債の多い農家は億近い多額の負債を抱えているというのが実態です。

JA菊池の畜産農家の経営再建の取り組み

多額の負債を抱える畜産農家に対してJA菊池では、畜産部に再建対策室が設けてあり、その部署で経営が厳しくなっている農家に対して経営再建に向けた指導を行っています。

経営再建指導対象農家の選定については、その選定基準が設けられており、営農貸し越しの限度超過者および固定化者、貸付金の長

期延滞者、資産査定分類債権対象者（債務者区分の要注意先、破綻懸念先、実質破綻先）、その他、経営再建が必要と認めた畜産農家とされており、各中央支所債権対策推進班会議において選定されます。

その後、JAの理事の中から選任された畜産専門委員で構成する畜産専門委員会で経営再建農家に指定し、それと同時に保証人会議を開催して、その農家の貸付金などの連帯保証人へ承諾をもらい、経営再建指導対象農家を決定します。その再建指導会は、本人および家族（後継者や妻など）と畜産指導員、再建対策室職員、泗水中央支所金融共済課融資係も同席して毎月1回開催しています。

経営再建指導に当たっては、最初にその農家の現状を把握するため、本人に青色申告決算書や家畜の飼養状況、畜産部で把握している販売実績・技術分析、金融共済課より貯金および債務残高、償還計画などを持ってきてもらい、まずは農業経営再建計画を策定します。

計画作成の時期は、毎年1～2月に1年間の家畜移動表から経営収支、生活設計などを検討しながら作成し、毎月の指導会で経営収支、家計費の進捗状況を確認します。費用や家計費であれば計画より多く支出している場合の原因を追求し、収入が計画より少ない場合、その原因と今後の見通しについて検討します。

再建指導会の内容

毎月の再建指導会の内容は、畜産の技術関

係の指導員から販売実績の状況報告、飼養管理上の問題点が提起され、金融共済課から負債残高の状況報告、償還金の確保にかかる問題点の提起を行います。債務者本人からは、家計費および経営費の農協の営農貸し越し以外の現金などで決済された明細を提出してもらったうえで、現状の飼養頭数および牛の状況報告、今後の資金計画の相談などを提起してもらいます。

また、農協の営農貸し越しや農協の本人貯金口座からの資金の出し入れは金融共済課で明細を提示しますので、それらをもとに再建対策室職員がパソコンに入力して、その農家の毎月の資産・負債の状況、経営収支、家計費の状況、余剰金（欠損金）の状況を把握しています。それぞれから提起された事項について全員で協議検討しながら指導を行います。

そうすることにより、その農家の資金の流れ全体が把握でき、青色申告の決算書を作成する時にも大変役に立ちます。それと合わせて畜産指導員による毎月1回程度の現地指導により、牛の個体管理指導や給餌の指導を行っており、県の普及員や酪連の指導員も時々同席して指導してもらいます。



(写真は本文とは関係ありません)

役員も応じた再建指導

再建指導対象農家の中で特に経営再建が厳しい農家に対しては、必要に応じて農協の理事に指導会への出席を依頼して、理事からも指導をしてもらうこともあります。理事に指導をお願いすることにより、再建指導対象農家本人の意識の中には危機感が芽生えるのか、かなり効果があります。

また組合長以下、常勤の役員による全再建指導対象農家への年2回の早朝（午前6時～）牛舎巡回を行っており、牛舎の環境整備や牛の手入れ状況などについて注意喚起したりします。

農家側には、常勤役員が訪問することは事

前に通知していますので、少なくとも牛舎や牛の清掃などは、事前に実施されているようで、そういう面でも効果があるようです。

負債農家の共通点

私がこの仕事に携わって思うことは、負債にあえぐ農家には、いくつかの共通点があるということです。それはどういうことかといいますと、まず第1に、資金面の管理について、家族全員が把握できていなくて、経営主か奥様かどちらか一方が資金面の管理をされている点（家族内部の牽制機能が機能していない）、第2に経営収支の面で費用対効果の確認ができていない（例えば新しい資材を投入するときに、その資材投下で得ることのできる収益額の確認が不十分）、第3に他の農家に比べて牛舎にいる時間が少ない（観察不足による発情の見逃しなど）、第4に家計費で必要な費用と必ずしもそうでない費用の選別が不十分である、などです。

当然のことかもしれませんが、このようなことが重なり、結果的に多額の負債を抱えることになるのでしょう。毎月実施している再建指導会では、それを頭に置きながら農家と接し、問題点を洗い出し、その対策を検討しています。

資金切り替えの見極め方

ある農家は、貸し越しと未収金が膨れ上がり固定化がひどかったので、2年前に大家畜

経営改善資金で切り替えをしました。その農家は後継者が既に就農していましたが、多額の営農負債のために後継者はかなり精神的に追い詰められていた状況でした。

その時、私たちはなんとか切り替えをということで、まず、その農家の1ヵ月の経営収支を黒字にすることを目標に、1年以上前から搾乳牛の確保、繁殖率の向上、事故率の向上、家計費の節約の4点に注意を払いながら進めていきました。

そうしていくうちに安定した乳量が確保されるようになり、毎月の経営収支が何とか黒字になるようになったので、そのタイミングを見図らって借り換えを勧めました。その結果、借り換え後は貸し越しなしで資金繰りをして資金不足になることもなく、現在も償還は順調です。

その時に私が強く感じたのは、ただ単純に営農負債を切り替えるということではなくて、やはりその農家の現状の収支がどうか、今後どうなるのかを的確に把握して、畜産指導員や本人とも十分話し合いながら、今、切り替えるべきか否かを判断することが重要だということです。

そのようなことから農家の経営再建には、本人はもとより組合長以下農協の理事、畜産指導員、債権対策室指導員、金融課融資係が一体となって経営改善の方向性を全員が共通の認識として持ち、それに向けて進むことが大事だと思います。

また、気性が激しく、職員にもすぐ八つ当たりするような農家もいます。その方は農協

の指導にはなかなか従わず、反発ばかりして
いました。

結局、その方は、経営改善はできずに廃業
に追い込まれました。どういう人が順調に経
営再建が図れるかというと、農協の役員や指
導員の指導を素直に聞く人、そしてその指導
を実践できる人だと確信しています。

経営再建指導の 今後の課題

JA菊池では、現在、畜産の経営再建には特
に力を入れているところです。なぜなら、販
売高の7割強を畜産物が占めており、当JAの
浮沈も畜産の動向に左右されるからです。そ
の上、畜産農家は多額の負債を抱えているの
で、個々の経営が行き詰まるとストレートに
JAにも影響が出ます。

今後は、さらに畜産農家全体の技術指導は

もとより、経営指導に特に力を入れることが
必要です。そのためにはさらに県や市、関係
指導機関の指導協力を仰ぎながら経営再建指
導を進めなければならないと思います。

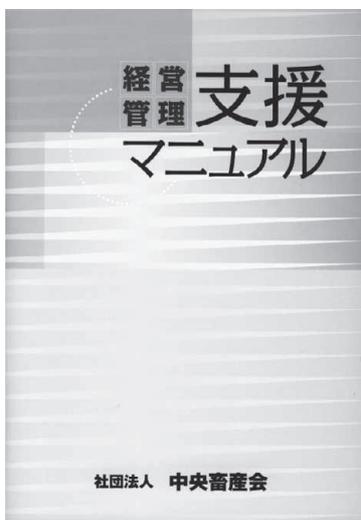
最後に

今回、この原稿の作成に当たって、今まで
やってきたことを振り返ってみました。特
別なことをしてきたつもりはまったくなく、
どこのJAの担当者も当然やっていることを
やってただけでした。やらなければならない
ことをいかに確実にやるか、簡単のようで
これはなかなか難しいことです。

今後も、農家の経営改善のために、私がや
れることを確実に進めていきたいと思いま
す。(筆者：熊本県菊池地域農業協同組合 泗水
中央支所 金融共済課融資係)

●参考図書●

経営管理支援マニュアル



近年、農業・畜産分野において地域の担い手育成の手法として、
また経営体質強化の手法として法人化が急速に進められています。
本書は、畜産経営の経営管理能力を向上させるために必要な会計・
財務管理、資金の調達、法務、法人化などの事項について、最近
の畜産情勢にみる課題と新しい制度・状況などを踏まえて検討し、
取りまとめたものです。法人化を考える畜産経営者はもちろんの
こと、経営指導者必携の1冊です。

【主な内容】

- 第1章 会計・財務管理
- 第2章 資金調達とその管理
- 第3章 税務
- 第4章 経営継承の取り組み
- 第5章 畜産経営に対する法人育成支援の進め方～法人化・法人育成の意義と効用～
- 参考資料 畜産経営が利用できる主な制度資金と使いみち

(社)中央畜産会 事業第一統括部(情報業務)

〒101-0021 東京都千代田区外神田 2-16-2

TEL 03-6206-0846 FAX 03-5289-0890 E-mail book@jlia.jp

セミナー

経営技術

畜産特別資金借受者指導に係る取り組み状況の概要②

—平成21年度7月に行われた関東・北陸・東海、近畿・中四国ブロック会議報告とりまとめから—

(社)中央畜産会

経営指導の運営状況、
効果および課題

(1) 借受者の経営改善計画作成指導の取り組み、効果および課題

①借受者の計画作成指導するに当たったの
取り組み

- ・定期的な個別指導、年3回の状況調査、借受者・JA担当職員との信頼関係構築している（山梨県）
- ・農協の技術員・金融担当者、県現地機関（地方事務所・農業改良普及センター）が連携し、計画書の作成にあって借受者への指導・助言を行っている（長野県）

——といったところは借受者の経営改善計画作成段階から各関係機関が内容を検討し、助言などを実施しています。

しかし、

- ・問題点など実行不可能な計画を作成する場がある（岐阜県）

という県もあり、借入者自身が自らの経営の現状認識と融資機関による計画的な経営指導の視点が重要です。

- ・融資機関と農業改良普及課が管理獣医師と連携し、飼養計画、返済計画をシミュレーショ

ン、本人および関係者（親族）の意志・意向を斟酌している（愛知県）

- ・計画書は借受農家と融資機関で作成することを基本とし、一般的には融資機関、県民局、普及センターの主導で作成されたものを、協議会でヒアリングのうえ計画書の問題点、疑問点を整理し、改善を指導。より現実に即した計画の作成に努める（岡山県）

という事例もみられます。

- ・借受者、融資機関に対し県出先機関（農林事務所）担当者が作成指導し、本庁担当者が確認しているため、審査委員会では問題が発生しにくい（静岡県）

と、審査委員会での新たな問題点が出されな
いところもあります。

- ・協議会構成7団体によるチーム指導のため、広範にわたる指導（島根県）

と、協議会機能分担を発揮しています。

②効果

- ・毎年度、継続的な指導を行うため、借受者および融資機関ともに再建に取り組むための認識を持続できる（島根県）

という県もあります。

③課題

一方で、

- ・平成20年に活性化資金借受農家1戸について、飼料代未払いが累積し新規畜特資金借入に取り組んだが、借入には至らなかった。JAの対応について、農家への営農指導員との関係が必ずしも良好でない上、購買や金融との連携がスムーズでない（山口県）とする農協内部の問題もみられます。

(2) 借受者の計画見直し指導の取り組み、

効果および課題

①見直し指導の取り組み

- ・見直し計画の作成指導、見直し計画の評価、問題点の抽出、今後の個別指導方針についての融資機関との協議などの活動を通じて、借受者および融資機関の意識向上を重点に図っている（群馬県）
 - ・融資機関が中心となって作成した計画を借入者ごとに定期的開催する借受者経営検討会で検討。県協議会で整合性を検討した後、審査会に提出するなど、借受者の経営内容の分析・検討を行っている（三重県）
 - ・対象農家、金融機関、畜産連合会、家畜保健衛生所、畜産会で計画作成の検討会を開催し、実績ベースを土台に今後の収支見通しを協議している（大阪府）
 - ・経営改善計画の目標頭数と現在の頭数の乖離がある場合、その原因を検討。単に増頭への誘導は餌高の現在、収益性を損なう恐れがあり、特に労働力に限りのある生産者にとっては、増頭を指導するより1頭当たりの差益を増加させる方向に指導している（兵庫県）
 - ・計画書は借受農家と融資機関で作成することを基本としているものの、一般的には融資機関、県民局、普及センターの主導で作成されたものを、協議会でヒアリングのうえ計画書の問題点、疑問点を整理し、改善を指導しているが、その際、畜産協会が経営分析したデータをもとにシミュレーションを行い、計画の整合性をチェックしている（岡山県）
 - ・見直し計画の5年は経過したが、返済完了まで毎年計画に対してずれが生じていないか確認し、償還財源がうまく確保できていない時は、要因を分析し、対処している（徳島県）
- など、借入者の実態を踏まえた要因分析を重視した指導を行っています。

②効果

- ・実績と比較して内容を検討し、見直しが必要である項目については助言を行っています。
 - ・毎年見直すため、実績と計画の乖離は少ない（岐阜県）
 - ・見直し計画は、前年度計画と作成時実績との対比となり、対象農家は経営改善の進捗を直視でき、取り組む課題の意識化につながる効果がある。また、育成に力を入れた2軒の繁殖農家は子牛価格の大幅な改善を実現し収益性の改善が図れた（大阪府）
 - ・見直し計画作成でも融資機関と借受者が行うことを基本としているものの、販売価格の設定にやや甘さがみられるが、借入を認識する上で効果がある（愛媛県）
- といった事例がみられます。

③課題

生産性が高位に安定する中で、その持続と経営のアキレスけんとなる飼料価格の動向にあります。その軽減のために自給飼料などへの取り組みが期待されますが、下記のような課題も挙げられました。

- ・調製機材の調達コストの負担が大きく難しい状況としているが、飼料米の取り組みが可能性として残るとしている（大阪府）
- ・借受者不在で計画書が作成されがちであり、借受者に計画内容を理解させることが重要としている（岡山県）

（3）借受者の計画達成指導の取り組み、効果および課題

①計画達成に向けた指導

- ・自ら積極的に改善する意識が欠けている農家が一部見受けられる（8戸中1戸）（富山県）
——としつつも、指導と濃密指導は渾然一体こんぜんとなっています。
- ・地元指導チームと連携し、年1回～数回、本人を交え、計画の進捗状況をチェックする。改善すべき項目を一覧表にして、取借受者経営検討会において、改善計画に対する進捗状況を定期的に報告させることで進捗状況を確認。計画値との乖離については、その課題を報告させて対策を検討、取り組み状況、達成状況をチェックしている（岡山県）
- ・主たる生産部門に加えて、加工・販売部門等経営の多角化により他部門も含めた収益性の向上が課題となっている経営もある（三重県）

また、生産手段が生き物である家畜であることと、畜産物が相場に大きく影響されながら流通するものであるがゆえに、必ずしも計画通りに改善がはかどらないといった難しさがあります。

- ・家畜個体の生産性いかに何にもまして経営の良否を左右することから、この点に対する疾病・衛生など技術的対応への指導や借受者が基本的な対策を継続して確実に実行することへの指導を重視。次に経営全般にわたる資金計画や経営管理技術への指導が大切（静岡県）
- ・達成指導については、推進協議会での協議検討を得て、生産技術については家畜保健衛生所を中心に実施している。また、経営課題については畜産会および協議会構成団体が濃密指導として対象農家への適宜指導を行っている。生産技術面だけでなく経営面においても後継者が中心となり、経営改善を進める農家として体制は整っている（大阪府）

というところもあります。

②効果

- ・年間の収支と技術実績を検証し融資機関、借受者に報告助言し巡回指導と経営内の意思決定の効果がある（高知県）
といった効果もみられます。

③課題

- ・地元指導チームの温度差により、指導効果は左右されるとしている（岡山県）
- ・本会が中心となり、関係機関（協議会構成団体など）と連携して指導しているが、融

資機関が畜産事業に対して消極的な姿勢を強めている場合があり、そのような中では指導を十分に行えないこともあるため、全県的な指導体制の構築と併せて、農業団体との連携の強化が求められる（群馬県）

としているところがみられます。加えて、

- ・畜特資金は順調に償還する一方で、飼料の買掛金や別の借入金が増え、財務内容の厳しい経営がみられるので、今後とも、経営改善に向けた指導を実施する（新潟県）

という県もあります。

（４）濃密指導の取り組み、効果および課題

①取り組み

- ・県推進協議会および指導関係機関とともに指導班を編成し融資機関とともに借受者に対して経営改善指導を実施（茨城県）
- ・現地調査（年3回）および経営検討会を開催している（富山県）
- ・対象経営から聞き取り調査、現地確認、経営総合調査を実施し、診断会を開催（滋賀県）
- ・濃密指導は酪農・肉用牛・養豚の各1戸を対象に実施しているがその効果は十分とはいえない。対象農家の考え次第であるが、巡回時には理解して対応をする態度を示すが、再度訪問ではまた同じ事の繰り返しとなっている。課題を1つ1つ解決することが大切であり、融資機関が日ごろの巡回指導を徹底して指導する必要である（愛媛県）という意見が出ています。

②効果

- ・濃密指導の農家で飼養管理技術を見直すこ

とにより生産性が向上し、経営所得が向上した（富山県）

という事例があります。

③課題

飼料・原油高騰前までは、販売価格の安定等により収益が確保されていましたが、飼料・原油高騰後は、生産費用が販売額を上回り収益が減少し償還計画に影響を及ぼしています。

- ・この対策が急務（茨城県）

としている県がある半面、

- ・協会などが中心となり、関係機関（協議会構成団体など）と連携して指導、ただし、融資機関が畜産事業に対して消極的な姿勢を強めている場合があり、そのような中では指導を十分に行えないこともあるため、全県的な指導体制の構築と併せて、農業団体との連携の強化が求められる（群馬県）としているところもあります。

畜特資金は順調に償還する一方で、飼料の買掛金や別の借入金が増え、財務内容の厳しい経営がみられるので、

- ・今後とも、経営改善に向けた指導を実施する（新潟県）
- ・当協会が経営収支および経営上の改善項目を把握し、関係機関と連携を図り、借受者に指導を行っている（富山県）

という事例もみられます。

（５）借受者指導の優良事例

- ・優良事例は4事例で、優良事例に共通する事項はただ1つ。再建の取り組みを行うことについて家族全員に認識があり、家族挙げての取り組みが行われていることがあげ

られる（島根県）
という意見が出されました。

関係機関などの取り組み

（１）融資機関の取り組み

①営農指導

- ・資金繰りなど課題のある経営は月々の資金収支表を作成し管理、また、技術面では牛舎の巡回指導で日常管理の留意点の確認を行っている（滋賀県）
- ・営農担当者、金融担当者が連携して定期経営検討会や半期ごとの実績点検を実施することにより借受者の経営状況把握に努めているが、畜産専門職員を置く融資機関はないため、資金繰り指導が主体となる（三重県）
- ・融資機関に属する営農指導員、畜産技術者が、それぞれ借入者の経営改善を指導する
その他家畜保健衛生所ならびに農業改良普及センターの技術者の指導を仰ぐ約定償還に遅延が発生した場合、融資機関は償還対策を厳しく求めている（兵庫県）

とする県もあります。

- ・酪農経営では牛群検定加入農家は検定成績をもとに技術指導を実施し、肉用牛においてはソフトを活用して経営診断・分析に基づく定期的な巡回指導を実施、養豚においては日常の指導においてきめ細かな指導、特に疾病が経営に影響するため家畜保健所とは連携をとりながら衛生検査も実施対応している（愛媛県）
- ・生活面、経営面の指導を徹底し現在は大幅

に改善した。①家計簿の記帳、②指導班会議を関係機関（JA、県、経済連、獣医師など）の協力を得て毎月開催、③月2～3回JA職員の現地訪問、④親族への財務内容の公開などの内容を実施（愛知県）

- ・システム利用の経営体については、積極的な指導がみられるものの、システム外の経営体については、強力な指導が難しい状況にある（群馬県）

など、システム外への指導の難しさも報告されてきています。

②債務保証

- ・大部分の融資機関は、県農業信用基金協会の債務保証を受けているが、個別の案件ごとに対応している（群馬県）
- ・信用基金協会が積極的に経営検討会などに参加しており、保証補完機関としての一定の役割を発揮、また、改善不可能な先については、保証継続を打ち切ることも視野に入れ、代位弁済の履行も実施している（三重県）
- ・農協によりやや差が見られるが償還が適切に行われているために問題はない（愛媛県）
としているところもありますが、保証補完機関の厳しい対応もみられるようです。

（２）畜産協会の取り組み

まずは山梨県での取り組みを紹介します。

- ・協会の責務として、生産者、JA職員のスキルアップを図ることが重要、日ごろの生産者支援業務や集合研修時の積極的な支援を実施していく。また、一般の資金関連支援

活動の内容が変化してきているとして、具体的には——

- ① J A サイドの回収（計画の可能性・妥当性の検証など重複指導）
- ② JA 経営体質強化に際し、個別格付け後の支援
- ③ 複数の融資機関における経営再建への協調対応
- ④ 公的融資機関との調整
- ⑤ 技術者レベルに合わせた個別定期支援
- ⑥ 経営改善計画支援

——など、近年の経営形態の多様化、流動化に伴う経営形態の転換時のアドバイスを行う。また、当県においては関係機関と連携し、それぞれの分野で情報を持ち寄り、その計画の妥当性、支援方法などを定例で開催される地区別協議会で検討もされており、今後も実施していく

また、兵庫県では下記のような活動を行っています。

- ・ 推進指導支援協議会を年度の初めに基本的に1回開催し（6月10日）、県の基本方針説明ののち、借受者の到達点・課題などを協議・検討し、計画達成指導の方法、内容について意思統一を図る（県、経済連、農協中央会、県信連、基金協会、畜産協会）。

協議会においては、借受者ごとの課題、課題に対する到達点などを明らかにし、今年度の借受者ごとの課題と対策を浮き彫りにし、焦点を絞った指導となるようにしている。

具体的には——上記の支援協議会全体会議を午前で開催したのち、午後は事前に提

出された当年度計画を含む4年間分の「借受者実態調査」に基づいて、融資機関ごとに農林事務所立ち会いの下で個別にヒアリングを行って借受者の到達点・課題を協議検討する。その後、現地指導を行うメンバーである農林事務所、融資機関との間で、改めて今年度の課題と対策を確認する。この場合、上記の組織に加えて、農林事務所、融資機関—指導および融資が加わる。

また、当協会は、支援協議会全体会議および個別ヒアリングの席において、実施要領に基づいて支援協議会が行う指導の具体的内容を説明し、さらに、「計画達成、融資機関、実績点検、経営改善状況調査など」の内容を明確にした今年度の借受者ごとの指導事業実施計画案を具体的に提示している。（期日または回数、指導対象農家、指導対象融資機関、現地か J A などが、参集する支援協議会のメンバー）

具体的な指導、実施期日については、家畜市場日などの支障を避けるため事前に関係者の日程を調整した上で、現地指導などを行う。

（3）その他関係機関との連携強化

- ・ 日本政策金融公庫との連携は3年目となり、金融サイドのノウハウを生かした支援が展開可能。県指導機関との連携（畜産普及科）は、技術的なサポートに重要なウエートを占めている（山梨県）
- ・ 地域における経営検討会により借受者の課題や改善事項を共有、また、県出先機関の

協力を得ることにより飼養管理、環境対策、衛生対策といった技術指導の協力を得ている(三重県)

があるほか、協議会構成8団体に加えて行政機関(畜産指導係、金融係)、管内家畜保健衛生所が、連携をとった支援体制をとっています。

- ・畜産協会は事務局として協議会運営事務を主体的に行うとともに、現場状況の数値的把握を担い、家畜保健衛生所による飼養技術指導、金融機関および畜産連合会の資金管理指導の集約化による協議会構成団体の情報共有に努めるとしている(大阪府)

というところもあります。

融資期間および借入者への現地指導時、県畜産課、畜産協会職員以外にも普及や県酪の職員にも同行してもらい、より幅広い専門家で技術指導するようにしています。

畜産特別資金 融通円滑化事業

(1) 平成21年度における拡大基金造成の見直し

現在のところ予定していないとする県が多くなっていますが、

- ・余裕枠があり、現状のままで推移(滋賀県)
- ・当面3件ほど需要があるが、畜産経営維持緊急支援資金との競合となることが想定されるため、拡大基金の造成は微妙。また、地元負担金としての県、全農、全共からの協力は得られない状況、中央団体から各関係機関にもっと理解を得られるよう強く要請すべき(三重県)

としているところや、

- ・本県においては、平成13年度までに特別円滑化基金(73,200千円)、円滑化基金(39,929千円)について基金造成済み。既造成額を上回る、新たな造成は考えていない。また、県の財政状況からも、新たな出資は困難な見込みである(岡山県)

としているところもあります。

(2) 事業推進上、有効活用のための方策

- ・非農協系金融機関が利用しやすい制度への見直しが必要(岐阜県)
- ・基金協会の自己リスクに対して、確実に補てんできる制度が必要。また、部分保証については、融資機関の事故時のペナルティと選択できるような制度にする必要がある(三重県)

との意見も出されています。

(3) 現在の仕組み上の問題点など

- ・商工の信用保証制度と仕組みが大きく異なるため、非農協系金融機関が本資金制度を利用するには電算システムの開発から行わなくてはならず、貸し付けを阻害する大きな要因(岐阜県)
- ・資金名が変わるたびに基金協会、融資機関の契約をしなければならない(静岡県)
- ・実質的に崩せない拡大基金よりも、特別支援金のように基金協会リスクを補てんするような制度とすべき、また、県財政当局の拡大基金等に係る出えん対応が厳しいことも問題。国政とのギャップがある(三重県)

とする意見も出されています。

セミナー

生産技術

放牧による効率的な水田活用を目指す —放牧技術による水田フル活用に関するセミナーから—

(社)中央畜産会

畜産・水田作経営双方の 発展を目指す検討会

(独)農業・食品産業技術総合研究機構中央農業総合研究センター(以下、研究センター)は11月9、10日の2日間、茨城県下で「飼料イネ活用型周年放牧モデルの開発」に係る平成21年度現地検討会を開催しました。その中から放牧による効率的な水田活用の取り組みについて紹介します。

米の生産調整や遊休農地の解消のため、また、飼料を増産する上で環境負荷の少ない畜産を推進する上で、農地での飼料作付けや放牧が注目されています。そのため、地域資源

を効率的に活用することで畜産経営が発展し、かつ財政的な負担の少ない農地利用体系の確立が求められています。

そこで、周年放牧を支える技術開発と、その評価・定着などを行う制度や施策を提示し、実際に飼料イネ活用周年放牧モデルを確立し、畜産経営と水田作経営双方の発展を図ることを大枠のモデル開発の目的として、今回の検討会が開かれました。

現在、常総市の菅生町、大生郷町の2地区では、畜産農家と耕種農家が連携して飼料イネ生産が行われています。今回の検討会は、ここの事例を対象とした水田フル活用セミナー。セミナーには、北は青森県、南は福岡



菅生町のひこばえとイタリアン追播放牧水田でくつろぐ牛たち



水田の前で説明を行う千田雅之氏



フロントフェイス前に並んでイネを採食する放牧牛

県と、全国各地から県担当者や放牧研究者など約90人が参加しました。

現地見学会の様子

1日目の9日は現地での取り組みの見学会が行われ、研究センター関東飼料イネ研究チームの千田雅之上席研究員らが、参加者に実際の放牧現場を見せながら説明を行いました。

今回の検討会で披露された事例の特徴は、おおよそ以下の3点となります。

①【飼料イネ収穫跡のひこばえと牧草を組み合わせた秋春季放牧】

参加者がまず訪れたのは菅生町のほ場。飼料イネ（早生種）の収穫後にひこばえを育成し、イタリアンを追播しつつ、晩秋と早春の2期に繁殖牛（妊娠確認牛）を放牧しています。菅生町の約2haのほ場を3分割し、刈り高も10cmと5cmの2パターンで試行しています。当日は6頭の雌牛が放牧されてお

り、ひこばえなどを食べていました。

②【飼料イネの立毛放牧と放牧跡の牧草栽培・春放牧】

続いて訪れた大生郷町のほ場では、品種の異なる立毛状態の飼料イネを給与することに加え、牧草栽培を行うことで放牧期間の延長を図っています。

約20haの農林地を利用し、妊娠確認牛を40頭前後放牧しています。また、採草効率を高める（残草を減らす）ために、ストリップ方式という電牧（フロントフェイス）を立毛イネ手前に設置して柵の下からイネを採食させる方法を採用しています。採草面は幅広く取ってあるので、牛同士が争うようなことも見られませんでした。

③【不耕起播種機を用いた牧草OS（オーバーシード）と牧養力の向上】

また、大生郷町ほ場では、暖地型永年草地（バヒアグラス）へ、不耕起播種機を用いて



大生郷町のほ場は、住宅地などにも隣接している

イタリアンを播種することで、スギナやギシギシなどの春雑草の侵入を抑制し、草地の牧養力の向上を図っています。

なお、畜産農家の牛舎に近い菅生町では早生種、遠隔地の大生郷町では中晩成種のイネを栽培することで、収穫時の作業集中を緩和させています。

参加者は両地区の放牧風景を見学し、生産者らに実際の現場での感触などを質問したり、牛の嗜好性^{しこうせい}を確認したりしました。

セミナーでの事例報告

検討会2日目のセミナーは、つくば市にある農林水産技術会議筑波事務所で開かれ、畜産草地研究所産地畜産チームの池田哲也チーム長を座長として討論が展開されました。

農林水産省畜産振興課の相田剛伸課長補佐が、水田の有効活用による飼料自給率向上対策について説明しました。飼料自給率の現状から始まり、今日の飼料米の利活用に至るまでの自給飼料生産のための各地の取り組みや国の施策などが紹介されました。また、22年度の耕畜連携対策についての説明も行われました。

続いて、実際に飼料イネの立毛放牧に取り組んでいる秋田、群馬、長野の3県における事例が紹介されました。いずれの事例においても、一定以上の成果を上げ、課題も見いだしていることから、次年度以降の研究、推進につながるものだったといえます。

また、兵庫県農業共済組合連合会丹波診療



セミナーで司会を務める池田哲也座長

所の芝野健一氏は、臨床獣医師の立場から見た「飼料イネの栄養特性と給与時の留意点」を解説。飼料イネを給与するにあたって、虚弱子牛の出生割合を低下させるための留意点や給与効果などについて、実証結果をもとに説明しました。

最後に、飼料作による水田フル活用技術の経済分析として、千田上席研究員が発表を行いました。飼料イネの機械収穫・牛舎給与と放牧利用の比較や、牧草放牧と飼料イネ立毛放牧の比較、さまざまな作付け体系（二毛作）間での比較といった観点で分析が行われており、セミナーのまとめとなりました。

今回のテーマとなった立毛放牧も含めた水田牧草放牧については、農家にまず放牧自体の利点を説明し、耕種農家と畜産農家の利害調整や周辺地域へ理解を求めることなども必要となります。また、品種選択や電柵の使い方、繁殖雌牛以外の放牧の可能性などの技術課題も残されています。しかし、水田放牧を活用することで、畜産のみならず地域農業全体の再編・活性化、耕畜連携の進化も期待でき、今後の活動が注目されます。



あいであ & アイデア

「手づくり草量計」を用いた草地の収量推定

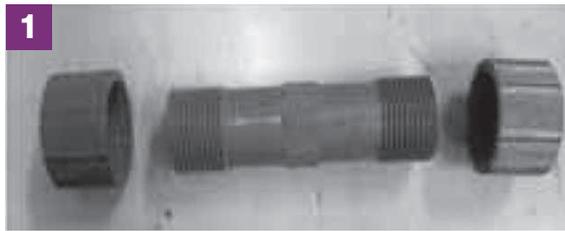
前田 康之

畜産農家の皆さんは牧草地の収量をどのように把握しているのでしょうか。採草地ならばロールがいくつできたか、放牧地ならば牛が太ったかやせたかで、草地の状態を判断している人もいるでしょう。研究機関では坪刈り法による調査が一般的ですが、時間と労力がかかる上、調査枠を相当増やさないと限り推定誤差が大きいという問題があります。

簡易に草量を調査する器具の一つに、ライジングプレートメータというものがあります。これは円盤が棒に沿って上下する構造で、草の上にこれを垂直に下ろし、草がプレートを支える高さ（圧縮草高）を読み取るという単純なものです。海外メーカーの商品も市販されていますが、高価（約7～10万円）であるとともに、圧縮草高が40cm以上となる草地では利用できないという課題がありました。そこで私たちは草量計の低コスト自作法と、坪刈り法より省力的かつ高精度に収量を推定する方法を考案しました。

製作費は600円、坪刈り法より省力・高精度

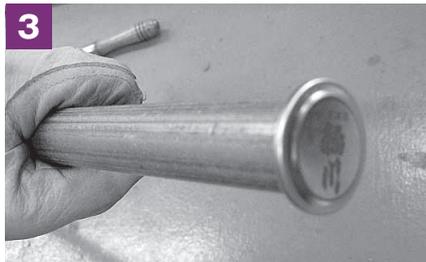
必要資材は、ハウス用直管パイプ（外径22mm、長さ110cm）、水道用塩ビ管つなぎ（16mmホース用）、漬物用押しぶた（直径30cm程度）、ワッシャー（直径30mm）、紙製メジャー（約100cm）



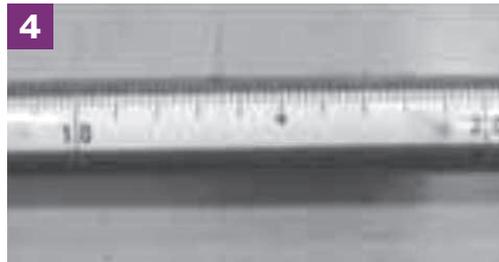
1 水道用塩ビ管つなぎ



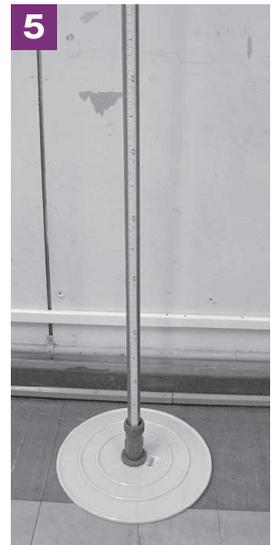
2 押しぶたを塩ビ管つなぎで挟む



3 パイプの末端にワッシャー等を溶接



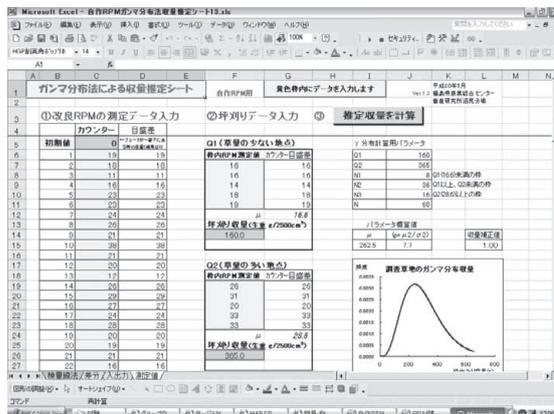
4 パイプに紙製メジャーを張り付け



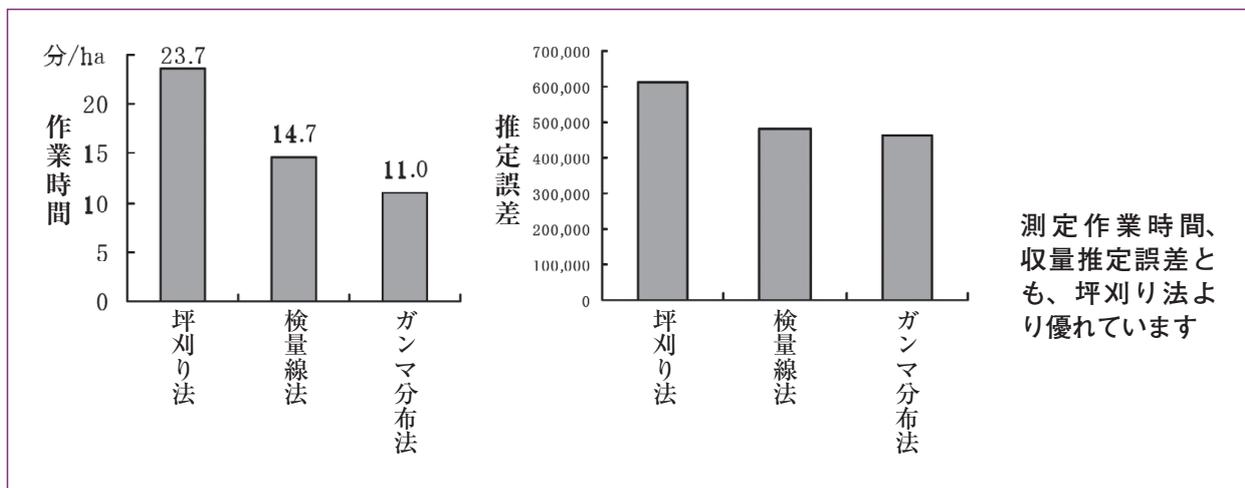
5 完成した草量計



調査は測定者と記録者の2人で行うと効率的



Microsoft Excel マクロによる収量推定プログラム



測定作業時間、収量推定誤差とも、刈り法より優れています

で、いずれもホームセンターなどで容易に手に入ります。材料費は約600円に抑えられました。

使い方は簡単です。ほ場の対角線上を十字に歩くようにして、50～100点測定します。毎回同じほ場を測るのであれば、その平均値をあらかじめ作っておいた検量線の式に当てはめるだけで収量が分かります（検量線法）。初めて測定するほ場であったり、調査目的でより高精度に収量を知りたい場合には測定値をガンマ分布曲線に当てはめて分析を行います（ガンマ分布法）。分析はMicrosoft Excel上で動く専用プログラムで誰でも簡単に行えます。

この方法を使うことで、従来の刈り法と比べて半分の作業時間で、なおかつより正確に収量が推定できました。詳しい製作・使用方法やプログラムの利用については、当場のホームページでも公開（福島県ホームページ—組織別—自作式草量計の利用で検索）しています。

（筆者：福島県農業総合センター 畜産研究所沼尻分場 主任研究員）

11月の牛肉市況

資料：東京畜産物情報センター「畜産物市況情報」以下同。
(単位：円、頭、%)

	東京市場																	
	和牛去勢A								和牛去勢B									
	取引価格				取引頭数				取引価格					取引頭数				
	5	4	3	平均	5	4	3	計	5	4	3	2	平均	5	4	3	2	計
2月	2157	1683	1515	1759	26	49	24	104	—	1532	1441	1327	1458	—	4	2	2	8
3火	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
4水	1970	1661	1497	1725	64	74	33	182	1390	1561	1376	1180	1399	1	7	11	5	24
5木	1942	1615	1451	1639	63	103	69	250	1779	1588	1359	1184	1504	3	3	6	2	14
6金	2192	1702	1476	1818	91	106	53	262	1828	1585	1457	1173	1473	2	4	4	4	14
9月	2025	1628	1455	1615	11	36	16	67	—	1569	1409	1140	1442	—	4	7	1	12
10火	2015	1653	1462	1679	52	86	52	200	1692	1649	1334	1155	1385	1	3	16	1	21
1～10日計・平均	2055	1658	1471	1715	307	454	247	1065	1725	1575	1374	1193	1433	7	25	46	15	93
11水	1997	1646	1428	1673	64	78	57	212	1647	1485	1311	1194	1361	2	6	8	7	23
12木	1984	1632	1392	1620	46	76	59	195	1647	1556	1271	1195	1384	3	4	10	2	19
13金	2020	1583	1360	1602	49	86	58	209	2450	1413	1274	1111	1455	1	5	4	1	11
16月	1906	1583	1397	1595	23	43	23	95	1575	1521	1225	—	1396	3	3	6	—	12
17火	1960	1616	1399	1630	51	61	50	175	1718	1392	1305	1142	1391	2	7	2	2	13
18水	2129	1719	1417	1740	48	69	38	166	2023	1572	1377	1122	1523	3	6	7	1	18
19木	2127	1669	1405	1711	59	58	48	184	—	1433	1280	651	1223	—	2	4	1	7
20金	2203	1665	1428	1775	95	95	70	274	2102	1502	1298	1153	1378	1	12	10	7	30
11～20日計・平均	2066	1640	1403	1676	435	566	403	1510	1801	1485	1293	1142	1396	15	45	51	21	133
23月	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
24火	1982	1644	1449	1699	33	48	21	106	—	1583	1425	—	1548	—	6	2	—	8
25水	2263	1760	1505	1891	69	67	39	181	1846	1517	1440	1241	1444	1	6	2	5	14
26木	2316	1800	1552	1876	60	86	54	205	—	1566	1461	1101	1411	—	4	6	3	13
27金	2283	1778	1545	1940	97	78	42	226	1927	1638	1394	1235	1530	3	5	8	3	19
30月	2178	1768	1593	1888	35	32	18	87	1887	1681	1527	1239	1597	1	1	2	1	5
21～31日計・平均	2238	1758	1531	1875	294	311	174	805	1902	1578	1435	1204	1491	5	22	20	12	59
11月計・平均	2111	1673	1450	1735	1036	1331	824	3380	1800	1531	1349	1173	1427	27	92	117	48	285
前月比 11-10月	▲35	▲103	▲90	▲102	▲141	▲20	89	▲46	▲146	▲92	▲83	—	▲104	▲2	▲8	20	9	20
11/10月	98	94	94	94	88	98	112	98	92	94	94	100	93	93	92	120	123	107

※全国の9中央食肉卸売市場および19地方食肉卸売市場の取引実績(市場別、品種別、規格別頭数、価格)は、畜産情報ネットワーク(LIN)の参加団体である(社)日本食肉市場卸売協会のホームページ(<http://www.jmma.or.jp/>)からダウンロードできます。また、携帯電話からも市況速報をみることができます(<http://www.jmma.or.jp/i/>)。NTT DoCoMo iモード/au EZweb / softbank に対応しています。

	大阪市場																	
	和牛去勢A								和牛去勢B									
	取引価格				取引頭数				取引価格					取引頭数				
	5	4	3	平均	5	4	3	計	5	4	3	2	平均	5	4	3	2	計
2月	2114	1600	1404	1688	2	4	2	8	—	1638	1347	—	1544	—	6	3	—	9
3火	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
4水	2214	1778	1566	1699	8	24	13	55	—	1755	1565	1189	1460	—	1	2	2	5
5木	2350	1828	1552	1624	2	22	17	56	—	1681	1506	1072	1334	—	4	3	7	14
6金	2265	1801	1527	1784	19	31	28	83	—	1618	1473	1252	1431	—	3	10	6	19
9月	1969	1676	1456	1673	6	21	4	33	1691	1568	1343	1368	1473	1	2	3	1	7
10火	2181	1761	1511	1692	17	28	38	94	—	—	1496	1313	1367	—	—	2	5	7
1~10日計・平均	2195	1766	1524	1702	54	130	102	329	1691	1643	1453	1206	1425	1	16	23	21	61
11水	2046	1739	1451	1632	8	16	14	45	—	1549	1389	1105	1280	—	3	5	5	14
12木	1976	1704	1497	1577	5	19	20	51	—	1525	1409	1238	1382	—	3	3	3	9
13金	2031	1669	1379	1603	13	25	26	68	1874	1547	1390	1088	1408	1	4	8	3	16
16月	2004	1621	1332	1658	3	7	1	12	—	—	1250	—	1250	—	—	4	—	4
17火	1994	1679	1382	1524	9	22	29	73	—	1552	1274	1113	1240	—	2	8	8	18
18水	2305	1678	1315	1477	4	19	24	59	—	1527	1269	1054	1182	—	1	5	7	13
19木	2214	1640	1321	1641	18	21	21	69	1790	1471	1258	—	1373	1	1	5	—	7
20金	2036	1630	1333	1533	11	30	29	78	—	—	1276	1032	1168	—	—	7	6	13
11~20日計・平均	2085	1669	1374	1569	71	159	164	455	1832	1536	1312	1093	1280	2	14	45	32	94
23月	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
24火	—	1591	—	1591	—	2	—	2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
25水	2090	1653	1404	1656	21	38	28	94	—	1508	1388	1160	1395	—	7	8	3	18
26木	2507	1725	1520	1730	11	27	14	64	—	1702	1447	—	1507	—	2	6	—	8
27金	2236	1743	1434	1677	14	37	28	88	—	1740	1319	1219	1496	—	5	5	1	11
30月	1967	1674	1314	1467	8	18	29	64	—	—	1363	1045	1224	—	—	5	5	10
21~31日計・平均	2194	1698	1402	1637	54	122	99	312	—	1618	1383	1102	1401	—	14	24	9	47
11月計・平均	2151	1708	1423	1628	179	411	365	1096	1785	1601	1365	1132	1351	3	44	92	62	202
前月比 11-10月	▲31	▲63	▲84	▲85	29	72	88	240	▲221	▲30	▲66	▲134	▲109	▲6	14	22	15	46
11/10月	98	96	94	95	119	121	131	128	88	98	95	89	92	33	146	131	131	129

	東京市場																	
	乳用牛去勢B								乳用牛去勢C		F ₁ (交雑)去勢B							
	取引価格				取引頭数				取引価格	取引頭数	取引価格				取引頭数			
	4	3	2	平均	4	3	2	計	平均	計	4	3	2	平均	4	3	2	計
2月	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1246	1146	944	1087	10	26	23	59
3火	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
4水	—	—	702	702	—	—	1	1	687	2	1162	1110	881	1059	11	33	28	77
5木	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1321	1168	907	1090	2	14	12	29
6金	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1224	1144	925	1091	8	18	13	39
9月	—	—	626	626	—	—	2	2	648	3	1318	1095	897	1029	4	25	26	56
10火	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1254	1165	874	1036	3	26	27	56
1~10日 計・平均	—	—	651	651	—	—	3	3	663	5	1229	1134	900	1061	38	142	129	316
11水	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1051	1159	891	1001	3	18	28	49
12木	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1265	1136	917	1078	12	32	27	71
13金	—	—	550	550	—	—	2	2	—	—	1328	1096	851	986	6	20	37	64
16月	—	—	636	636	—	—	1	1	630	1	1209	1065	829	994	7	21	20	48
17火	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1212	1116	830	1002	8	24	26	58
18水	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1240	1109	876	1023	7	26	26	59
19木	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1272	1095	862	1008	5	23	24	52
20金	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1238	1084	802	976	3	23	20	46
11~20日 計・平均	—	—	578	578	—	—	3	3	630	1	1239	1108	859	1011	51	187	208	447
23月	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
24火	—	—	—	—	—	—	—	—	623	1	1253	1085	850	1010	4	23	18	45
25水	—	—	630	630	—	—	1	1	529	1	1343	1163	841	1056	6	18	18	42
26木	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1402	1178	936	1155	9	26	18	55
27金	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1256	1194	890	1096	8	31	25	65
30月	—	—	676	676	—	—	1	1	—	—	1293	1155	954	1131	8	20	10	38
21~31日 計・平均	—	—	653	653	—	—	2	2	576	2	1316	1157	888	1092	35	118	89	245
11月 計・平均	—	—	624	624	—	—	8	8	637	8	1257	1129	877	1046	124	447	426	1008
前月比 11-10月	—	—	▲113	▲113	—	—	6	6	48	▲1	▲8	11	▲9	▲4	▲33	▲58	▲25	▲113
11/10月	—	—	84	84	—	—	400	400	108	88	99	100	98	99	78	88	94	89

	大阪市場																	
	乳用牛去勢B								乳用牛去勢C		F ₁ (交雑)去勢B							
	取引価格				取引頭数				取引 価格	取引 頭数	取引価格				取引頭数			
	4	3	2	平均	4	3	2	計			4	3	2	平均	4	3	2	計
2月	—	—	—	—	—	—	—	—	519	4	1270	1156	881	1125	13	22	11	46
3火	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
4水	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1291	1129	886	1022	6	23	32	61
5木	—	—	—	—	—	—	—	—	745	1	1376	1187	910	1072	4	17	21	42
6金	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1228	1086	1026	1091	4	9	9	22
9月	—	—	—	—	—	—	—	—	719	1	1304	1122	872	1027	7	19	31	58
10火	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1333	1183	870	999	2	7	22	32
1~10日 計・平均	—	—	—	—	—	—	—	—	590	6	1290	1143	893	1052	36	97	126	261
11水	—	—	—	—	—	—	—	—	662	3	1158	1087	812	930	2	24	38	64
12木	—	816	765	783	—	2	4	6	616	10	1419	1124	818	950	1	16	27	44
13金	—	—	—	—	—	—	—	—	657	2	1342	1045	811	978	4	18	17	39
16月	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1091	803	1042	—	16	3	19
17火	—	762	696	725	—	3	4	7	646	9	1140	1103	858	997	3	13	13	29
18水	—	—	—	—	—	—	—	—	634	3	1278	999	834	907	2	6	27	36
19木	—	846	717	746	—	2	7	9	698	4	1125	1109	755	878	1	7	15	23
20金	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1162	1052	832	989	4	14	10	28
11~20日 計・平均	—	801	724	749	—	7	15	22	644	31	1226	1080	816	952	17	114	150	282
23月	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
24火	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1044	763	886	—	7	10	17
25水	—	—	—	474	—	—	—	1	468	4	1262	1032	781	864	1	9	23	33
26木	—	894	774	795	—	1	5	6	712	17	1274	1071	829	976	2	18	17	37
27金	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1345	1074	858	960	2	8	17	27
30月	1394	1230	825	1042	5	11	25	43	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
21~31日 計・平均	1394	1202	816	1001	5	12	30	50	665	21	1300	1058	810	926	5	42	67	114
11月 計・平均	1394	1054	785	924	5	19	45	72	646	58	1272	1100	843	987	58	253	343	657
前月比 11-10月	1394	234	63	182	5	12	17	37	▲41	▲27	▲70	▲44	▲124	▲123	▲25	▲122	76	30
11/10月	—	128	108	124	—	271	160	205	94	68	94	96	87	88	69	67	128	104

11月の豚肉市況

(単位：円、頭、%)

	仙台市場										東京市場									
	取引価格					取引頭数					取引価格					取引頭数				
	上	中	並	平均	省令	上	中	並	計	省令	上	中	並	平均	省令	上	中	並	計	省令
2月	375	343	298	280	375	30	57	75	196	30	400	363	324	351	400	254	363	89	764	254
3火	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
4水	383	355	287	293	383	28	57	63	172	28	397	361	319	351	397	242	477	162	923	242
5木	410	372	311	332	410	12	39	54	120	12	397	338	291	307	397	300	522	203	1169	300
6金	384	360	281	292	384	69	113	85	327	69	399	365	336	324	399	261	424	124	947	263
9月	372	354	310	272	372	45	80	59	254	45	398	369	337	353	398	225	325	79	670	225
10火	384	362	277	329	384	48	107	63	242	48	405	377	353	371	405	300	458	124	920	300
1～10日 計・平均	381	357	292	296	381	232	453	399	1311	232	399	361	322	340	399	1582	2569	781	5393	1584
11水	421	355	297	315	421	43	52	33	154	43	403	385	350	351	403	184	311	97	652	184
12木	379	348	256	295	379	49	66	66	200	49	399	375	321	350	399	301	375	116	874	302
13金	390	354	235	246	390	24	40	49	168	24	402	388	334	349	402	226	300	117	721	226
16月	398	363	249	224	398	24	47	47	200	24	397	372	341	360	397	251	366	97	748	251
17火	393	361	266	278	393	36	30	59	174	36	403	375	321	367	403	293	487	114	929	294
18水	372	350	286	312	372	60	53	31	163	60	406	374	346	336	406	185	312	87	666	185
19木	385	343	275	308	385	50	59	69	193	50	412	372	315	351	412	208	398	157	814	208
20金	387	333	258	281	387	60	100	111	319	60	403	363	318	317	403	237	320	123	824	237
11～20日 計・平均	388	348	262	281	388	346	447	465	1571	346	402	375	328	347	402	1885	2869	908	6228	1887
23月	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
24火	372	341	285	285	372	32	101	79	246	32	403	353	333	325	403	250	389	97	844	250
25水	409	359	283	331	409	27	22	32	88	27	400	354	333	345	400	301	588	143	1104	301
26木	371	347	286	310	371	59	74	66	225	59	407	353	302	330	407	298	416	114	925	298
27金	365	340	264	285	365	61	91	85	283	61	406	359	321	347	409	333	454	129	1005	335
30月	358	345	279	297	358	56	57	41	178	56	403	371	348	330	403	217	317	71	697	217
21～31日 計・平均	370	343	278	296	370	235	345	303	1020	235	403	357	325	336	404	1399	216	554	4575	1401
11月 計・平均	380	349	276	289	380	813	1245	1167	3902	813	401	365	325	341	401	4866	7602	2243	16196	4872
前月比 11-10月	13	8	▲13	▲6	13	▲163	▲270	▲275	▲845	▲166	16	25	20	14	13	▲156	▲537	▲51	▲820	▲227
11/10月	103	102	95	97	103	83	82	80	82	83	104	107	106	104	103	96	93	97	95	95

※全国の9中央食肉卸売市場および19地方食肉卸売市場の取引実績(市場別、品種別、規格別頭数、価格)は、畜産情報ネットワーク(LIN)の参加団体である(社)日本食肉市場卸売協会のホームページ(<http://www.jmma.or.jp/>)からダウンロードできます。また、携帯電話からも市況速報をみることができます(<http://www.jmma.or.jp/i/>)。NTT DoCoMo iモード/au EZweb / softbank に対応しています。

	大阪市場										福岡市場									
	取引価格					取引頭数					取引価格					取引頭数				
	上	中	並	平均	省令	上	中	並	計	省令	上	中	並	平均	省令	上	中	並	計	省令
2月	391	328	298	288	391	71	150	81	363	71	382	347	304	359	382	265	156	81	505	265
3火	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
4水	391	331	304	326	391	124	147	122	419	124	385	356	351	366	385	212	184	44	452	212
5木	391	326	296	302	391	136	189	99	482	136	398	361	322	339	398	184	182	58	447	184
6金	391	327	310	321	391	113	165	78	402	113	398	362	368	361	398	185	171	80	451	185
9月	399	328	309	317	399	83	180	83	377	83	383	371	312	349	384	297	196	53	570	301
10火	399	325	313	330	399	126	186	99	435	126	371	343	311	343	371	222	207	90	528	222
1~10日計・平均	393	327	304	314	393	653	1017	562	2478	653	385	356	326	352	385	1365	1096	406	2953	1369
11水	390	330	303	330	390	145	127	56	359	146	373	356	328	350	373	198	148	64	421	198
12木	400	343	317	288	400	41	159	130	407	41	367	335	303	336	367	198	178	57	449	200
13金	398	343	316	327	398	84	152	94	364	84	369	367	346	334	369	206	151	59	444	206
16月	400	354	320	321	400	64	123	63	284	64	369	351	328	343	369	206	183	80	482	206
17火	399	359	329	347	399	56	116	92	278	56	375	342	308	340	375	130	81	30	251	130
18水	398	349	318	341	398	111	168	89	390	111	373	353	316	352	373	253	222	87	567	253
19木	398	356	324	307	398	69	160	155	438	69	387	340	292	354	387	227	159	29	426	227
20金	396	356	327	356	396	107	146	64	328	107	394	373	357	338	394	186	132	56	398	186
11~20日計・平均	396	348	320	325	396	677	1151	743	2848	678	375	351	324	343	375	1604	1254	462	3438	1606
23月	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
24火	394	363	327	292	394	37	119	83	306	37	391	391	317	361	391	235	164	117	527	235
25水	399	363	326	352	399	150	171	137	486	150	383	353	357	362	383	248	171	42	468	250
26木	396	357	318	307	396	84	227	120	505	84	417	369	322	356	417	184	168	54	423	184
27金	399	356	324	337	399	97	146	111	389	97	393	364	316	335	393	247	129	57	488	247
30月	398	347	311	292	398	54	142	104	369	54	379	365	296	335	379	252	184	120	598	252
21~31日計・平均	397	357	321	318	397	422	805	555	2055	422	391	368	315	349	391	1166	816	390	2504	1168
11月計・平均	395	343	315	319	395	1752	2973	1860	7381	1753	382	357	321	347	382	4135	3166	1258	8895	4143
前月比 11-10月	19	14	10	12	19	▲29	▲235	▲14	▲329	▲30	4	8	3	9	4	▲391	188	174	▲87	▲401
11/10月	105	104	103	103	105	98	92	99	95	98	101	102	100	102	101	91	106	116	99	91

10月の子牛市況

資料：(独)農畜産業振興機構「月別肉用子牛取引情報」
(単位：頭、%、円、月、kg)

道府県市場		取引頭数			対前 月比	1頭当たり価格(100円)			1kg 価格	対前 月比	平均 月齢	平均 体重
		計	めす	おす		平均	めす	おす				
和 子 牛	岩手 岩手中	1247	557	690	108	3446	2965	3834	1224	93	10	282
	岩手 県南	740	338	402	115	3680	3466	3861	1292	98	10	285
	宮城 みやぎ	1492	701	791	104	3370	3181	3537	1168	98	10	289
	秋田 由利	227	125	102	101	3734	3517	4000	1295	98	10	288
	山形 置賜	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	茨城 全農	120	55	65	71	3678	3166	4111	1250	111	10	294
	栃木 矢板	761	376	385	109	3824	3324	4312	1342	104	10	285
	群馬 渋川	286	141	145	105	3348	2886	3797	1170	92	10	286
	兵庫 淡路	493	220	273	109	4609	4206	4934	1857	96	9	248
	鳥取 中央	289	124	165	134	3362	2744	3826	1241	98	9	271
	島根 島根	346	168	178	102	3288	2660	3881	1188	94	9	277
	岡山 全農	273	133	140	103	3365	2942	3767	1246	91	9	270
	広島 三次	314	128	186	10466	3426	2928	3768	1213	98	9	282
	熊本 熊本	832	382	450	105	3557	3128	3922	1398	98	8	254
	宮崎 都城	1506	704	802	114	3546	3117	3922	1253	95	10	283
	鹿児島 肝属	1406	607	799	111	3267	2831	3598	1188	92	9	275
鹿児島 曾於	1772	785	987	101	3540	3128	3867	1250	97	9	283	
北海道 十勝	1107	481	626	103	3605	3139	3964	1214	103	10	297	
合計・平均		13211	6025	7186	109	3537	3132	3877	1264	97	9	280
乳 子 牛	青森 三本木	55	1	54	289	881	105	895	297	101	8	297
	群馬 前橋	7	4	3	700	1131	1712	357	449	273	10	252
	千葉 千葉	72	2	70	128	764	935	759	279	115	8	274
	岐阜 中央	10	5	5	71	915	1323	506	413	119	8	222
	愛知 豊橋	187	4	183	105	929	1268	921	310	93	8	300
	徳島 徳島	72	1	71	72	1063	809	1067	371	101	7	287
	宮崎 児湯	71	—	71	67	972	—	972	327	100	8	297
	北海道 十勝	11	1	10	21	487	483	487	182	104	7	268
	北海道 北見	111	8	103	113	599	554	603	200	101	8	300
合計・平均		596	26	570	96	858	1009	851	294	101	7	292